

令和7年度 第2回千葉県DXアドバイザー会議 開催結果（概要）

- 1 日時 令和8年3月30日（月）午前10時から午前11時40分まで
- 2 場所 県庁中庁舎10階 大会議室
- 3 出席者 委員：荒川委員、板倉委員（オンライン）、伊藤委員、今泉委員、小池委員、庄司委員（座長）、白澤委員、宮入委員
県：デジタル改革推進局 牧野局長、小坂次長
山本デジタル戦略課長、田中デジタル推進課長、
阿部デジタル推進課デジタル化支援室長、久我情報システム課長

4 議事概要

庄司座長の議事により進行

○議事（1）千葉県デジタルトランスフォーメーション推進戦略（1.1版）について

○議事（2）令和8年度の取組について

事務局から資料を用いて説明

○千葉銀行のAI戦略に関する取組について

各委員からの意見概要

【伊藤委員】

- ・千葉銀行デジタル戦略部では戦略立案から具体的な施策の実行、運用保守開発まで、すべて部内において一気通貫で行っている。大上段はお客様のために最高の顧客体験の創造をしますというところ。そのための戦略としてAIを活用するという成長戦略になっている。
- ・私たちとしてはAI、DXについて、従業員だけではなくて千葉県にお住まいの皆様にも寄与すること、地域の生産性が向上することを、数字で示していこうと思っている。例えば、振込ではこれまで店舗やATMで使われていた24分間が、今はアプリで1分44秒ぐらいで終わる。そうすると14倍生産性が向上、時間効率が図れる。何がみなさんの共通言語として伝わりやすいかというところで、まずはこれだけ時間短縮できますよということを4月から示していこうと思っている。

【荒川委員】

- ・今後の進め方として実行の優先順位を明確にすることを大切にしたい。限られたリソースの中、個々の政策を行っていく上で、まず取捨選択をして、優先順位を明確にしていくことが重要。特に効果が早く出るものとか、横展開しやすいものなどを中心に進めていただくのがよいのではないかと。

- ・生成AIを前提にした運用の転換。ツールを入れるだけではなく、それをどのように使えるかの段階を、現場任せとか各部門任せにせず、プロンプトの提案など誰でも一定の品質のアウトプットが出せるようにしてあげる取組をしていただくとよい。
- ・成果の見せ方について、何をやったかの説明が中心になりがちだと思う。成果を県民目線で、例えば窓口の時間の短縮のような実感できる数字サンプルを出していただいて、特にSNS等をうまく活用して広げていただくとよい。

(事務局)

- ・実行の優先順位の明確化について、まさにしっかりと取り組んでいくべきところと思う。成果の見せ方について、できるだけ、県民の方にわかりやすくなるよう、検討していきたい。

【庄司委員】

- ・説明は各分野の施策の中でAIを使っていきますという話であった、根本的な仕事の仕方の転換、横断的な話がなかった。「AIを活用したわかりやすい資料作り」でもいいのだけど、それを全部の部署に展開をさせるのがDX担当だと思う。データ活用とAI活用のトランスフォーメーションもしっかり進めてほしい。

【今泉委員】

- ・システムを作られる際には、アジャイル的に回していくと陳腐化も早いので拡張性が高いシステムを意識していただけるとよい。
- ・オープンデータについては、実際にデータ活用しようとする、データ形式が統一されているということがすごく大事。
- ・県として統一的なものを作って、それをうまく市町村にも提供していくといったようなことも考えていただくとよい。

(事務局)

- ・オープンデータについては、令和8年度には、データ抽出変換ツールの導入を予定しており、データを公開する所属の負担を軽減して、ファイル形式の整理や、データ内容の揺らぎの変更等も、ツールでできるようにしていく。
- ・職員の負担軽減をはかりながら、しっかりと機械判読性の高いデータを公開して、使っていただけるようにしていきたい。

【板倉委員】

- ・データを使って整理できるようにしました、充足させましたという施策がいくつもあると思う。今回の新しい施策にもはいつているが、こういうときにできるだけ元のデータを表

示してもらおうとより一層データ利活用にも資すると思う。

- ・従前のモデルでは、これを使いましょうといえれば一緒のものができた。AIだと、なんとなくこうなりました、となりがち。AIを使っていくにあたり元データも示すことでAIがどうしたのかを大学等が検証してみるような議論になれば注目されるかもしれない。
- ・例えばAIで翻訳。従前、翻訳をやろうとすると役所も国も、きちんとしたところに出して見ることとしていた。ただ、大体でよいことというのは結構ある。クリティカルではないところは住民から間違いを指摘されたら直せばよいとなると非常によい。
- ・総論的なところで、AIを使っていくと、AIがどういう結果を出してくるのか、AIが自分たちのことをいかに誘導しようとしているかっていう癖のようなものが見えてくる。これを意識しないといけないということが必ず生じてくる。うまくその癖を見抜いていく知見を言語化して共有していくとよい。

(事務局)

- ・例えば、今日お示した光化学スモッグの事例など、元データをしっかり示すことはやはり重要だと思うので、オープンデータの掲載等、工夫していきたい。また、県民の利便性が向上するようなものについては、積極的に活用していきたいと思う。
- ・AIのデータ連携の癖のようなものを見抜くには、やはり使っていく職員の方、人材育成が大事。いろいろ使って自分たちで知見を得るよう取り組んでいきたい。

【庄司委員】

- ・光化学スモッグのことについては、元データを出すことによって検証可能にするというのもあるし、元データをオープンデータとして民間の方に使っていただくことによって、同じ予想でも民間の方はもっと高度なことができるかもしれない。自社のデータと合わせて、自分のところに関しての予測ができるかもしれない。同じデータを民間にも使わせていくというオープンデータ活用をお願いできればと思う。

【小池委員】

- ・県民にわかりやすく伝えるための工夫について、自分事としやすいメッセージ、自身の暮らしの中にどういう変化があるのかという行動変容に繋がるメッセージを届けていくとよい。どれぐらい暮らしの中にDXがあるか。また、便利になって作れた余白の時間で豊かな生活が送れるのかみたいなことをストーリーでしっかり伝えていく事も、多くの世代に通じてできると思う。
- ・また、伝えたいターゲットに合わせて、手法や伝え方を変えていくというのは、非常に大事。高齢者にはシンプルに。働き盛りの人たちには効率化やコスト削減。若年層にはSNS、動画などコンテンツを意識するなど。

- ・例えば、デジタル広報クリエイターを公募された。これも募集に用いた転職サイトの利用層や県が求める人材によって、リーチできる層が変わる。SNSをフル活用して効果検証をやってみてはどうか。
- ・行政機関のつくる資料は文字が多くなりがちだと思う。積極的に職員の皆様が生成AIを使って、わかりやすく図にしてみてもか、絵にしてみてもするのがよい。
- ・オープンデータについては、渋谷区のダッシュボードはかなり充実している。千葉県のページがこれから拡充されていくことに期待をしたい。どんな人を使って欲しいと思っているかというアウトプットの具体的なイメージみたいなところも大事にしていけるとよい。

(事務局)

- ・ターゲットや資料の作り方など参考になる意見を頂戴いたしましてありがとうございます。県民の方にわかりやすくという点は力を入れて取り組んでいるところですが、いただいた視点を踏まえ、更にわかりやすい形で提供できるよう取り組んでいきたい。

【宮入委員】

- ・千葉県は「デジタルのチカラで創る県民の心豊かな暮らしと活力ある千葉」という目指す姿を掲げている。この目標に向けて、繋がってない施策はないだろうか？少なくともここところはもっと繋げていかないといけないというようなことは、常に見ていく必要がある。
- ・アウトプットを成果として出すのはよいが、それによってどんな効果が生まれたのかというアウトカムを掴まなければ、提供者側の自己満足に終わってしまう。時間やコストが削減できたことを納税者に示すことは大事であるが、それによってどれだけ幸せになったのか、暮らしやすくなったのかというところを見ていくことが必要。
- ・先日、自治体ドックランキングというのが出た。ベンチマーク的に、他と比べて自分たちの実力を知ることはできる。また、5つの指標をチャートにしているが、別にオール5を取らなくてもよい。指標のうち自分たちはここをしっかりとやっていくというところができているかを見るには意外に使えるのではないかと思っている。
- ・県が直接できることは結構限られている。受益者満足を高めようとしたときに、やはり基礎自治体が頑張ってくれないと、すごく良くなった、便利になったという実感がわきにくいと思う。基礎自治体が自分たちはどういうところを変えていくのかというビジョンをまず掲げて、そこに向けてDXがどれぐらい役に立っているのかということ振り返るときにも参考になる。

(事務局)

- ・戦略を改訂したことで上のステージをめざしつつ、「デジタルのチカラで創る県民の心豊かな暮らしと活力ある千葉」を目指して、そこに様々な施策が貢献しているかどうかという

ところも見ながら進めていければと思う。

【白澤委員】

- ・汎用性人工知能は、デジタル開発だけでなくイノベーションなど様々な作業に使われており、市民活動にも根づいているという認識で、こういった（本）会議で話をするスピードや教育現場でのスピードとは全然違うレベルで浸透していると思っている。市民活動や仲間との協働において何を重視すべきか議論しているなかで、対話の機会や共創の場を意図的に設ける必要性があるのではないかと話している。
- ・地域のデジタル化においては、「高度なデジタル技術」が障壁になっているという話も多く出ている。アナログに戻すのとは違うということ意識し、「障壁の低いテクノロジー」の採用も重要になっている。
- ・デジタル技術に関してはビッグテックの存在が大きく影響をおよぼしている。海外でも日本でも、ビッグテックに支配されているという状況がどういう未来を描くのかということ常意識していかなければいけない。
- ・ペーパーレスももちろん大事だと思いますし、フリーアドレス化も大事。そういったものの行く先が、職位とか役割を離れて議論ができる場、課題に対してアクションを起こす環境といった、行政職員の方の本質的な働き方改革になっていくことを期待している。

（事務局）

- ・共創の場の意図的な設定まで到達するかわからないが、さまざまな団体、協議会などを活用してこの先も取組を進めていきたい。障壁の低いテクノロジー、ビッグテックのようなところも意識しながら取り組んでいきたい。
- ・働き方改革について、例えば上司に順に決裁を上げていくような、行政の仕事のあり方として重要な部分もあるけれども、ベースとなるアイデアの出し方などの場で自由な議論ができる形として、コミュニケーションの活性化、Web会議を使った新たなコミュニケーションの取り方といったところからつなげていけるよう指摘の点を参考にさせていただく。
- ・県全体のDXを進めていくため基礎自治体である市町村の取組が大事。従来から県職員と民間専門人材とで市町村を回り技術的な助言をしてきたことに加え、副市長等を直接訪問し、DXを進める上での知見を伝えるなど市町村のDX推進が盛り上がるよう支援に取り組んだ。来年度以降も継続して、市町村と県の双方あわせて職員の意識、組織全体としての意識が変わっていくような取組を進めていきたい。

【庄司委員】

- ・オープンデータについて、ツールを使っていくという話もあったが、なるべく自動化して

いくことが大事。人の手をあまり介さずにこのサイトがどんどんフレッシュになっていくというようなことを目指していくべき。

- ・行政手続のオンライン化の利用率について、オンライン化しましたで終わるのではなく、それが皆さんに使われて便利になっているか、時間短縮になっているかという効果の部分意識していくべきだと思う。それを促すために、インセンティブをつけるとか、期限を設けて、いつから先はこれもうオンラインじゃないとやりませんよというふうにしてしまおうといった観点も必要と思う。

○議事（3）その他

事務局からの説明はなし

【白澤委員】

- ・協働や共創でA Iを使って開発作業を実際に行っているグループでも、開発や発想・思想などのスピードがすごく早い。ちょっと遅れるとキャッチアップができないということが起きている。一度現場を離れるとプロジェクトへの再参入が難しいところがある。実際、現場では皆さんどのようになっているか伺いたい。

【庄司委員】

- ・特に協働共創領域については、社会環境の変化や参加メンバーの個人的事情で離脱してしまうこともあるので、そういうものであると割り切って前提としていくしかないかみたいなどころを感じる。
- ・A Iも日々出てくるニュース、新しいルールや技術を全部キャッチアップする必要はなく、障壁の低いツールでできることから増やしていきましょうという観点で積み上げていくことが一つの出口かと思う。

【庄司委員】

- ・今回の推進戦略改定について、パブリックコメントを行ったところ、個人6名、法人団体2名から意見が寄せられた。県民のみなさんが千葉県のデジタルについて何か言いたくなるような機運醸成も大事だと思うので、次にこういうことやるときにはもうちょっと意見が来るとよいと思う。
- ・今日紹介いただいた千葉銀行の話、非常に参考になる例があった。銀行業界は目に見えて、ATMが増えたり、アプリが普及するなどDXを形にしてこられた大きな領域の一つと思っている。行政とも窓口対応があることは近いし、一種の情報サービスという点も重なるところがあると思うので、非常に参考になる。

(事務局)

- ・ ありがとうございます。本日皆様からいただきましたご意見を踏まえ、本県のDXをより一層推進して参りたい。